

病性鑑定における牛白血病診断症例のウイルス学的検索

中丹家畜保健衛生所

○田中優子 万所幸喜 吉良卓宏

【はじめに】牛白血病ウイルス（BLV）は制限酵素断片長多型（RFLP）により6つの遺伝子型に分類され、国内ではI型が広く浸潤しているとされている。今回、過去の牛白血病症例について遺伝子型別によるウイルス学的検索を試みた。【材料及び方法】平成17年から26年に当所の病理組織学的検査で牛白血病と診断した71症例（36戸）のホルマリン固定パラフィン包埋組織を用いた。抽出した核酸からPCR法によりBLVのenv遺伝子gp51領域の一部を増幅し、RFLPによる遺伝子型別を行い、品種、農場、月齢や腫瘍細胞形態等との関連を調査した。【結果】71検体中51検体（24戸）で標的遺伝子を検出した。遺伝子型はホルスタイン種（Ho1）でI型31検体（16戸）、V型8検体（1戸）、黒毛和種（JB）繁殖牛でI型4検体（2戸）、II型2検体（1戸）、III型2検体（2戸）、JB肥育牛でI型3検体（2戸）、II型1検体（1戸）であった。Ho11戸ではI型に加えV型が検出された。他の農場では遺伝子型は単一であった。月齢及び腫瘍細胞形態との関連は認めなかった。【まとめ】発症牛について実施した今回の調査では、Ho1はI型が主流であり、JBではI型以外にII型とIII型が確認された。今後、発生農場ごとにBLV感染牛の遺伝子型別の浸潤調査を行い、発症率等との関連を調査したい。